

食品の安全性に関する用語集

(第 5.1 版)

平成 28 年 4 月

食品安全委員会

目次

はじめに		ページ
1	食品安全基本法の制定と食品安全委員会の設置.....	1
2	食品安全行政の枠組み	1
3	食品安全委員会の役割	2
(1)	食品安全委員会の構成	2
(2)	食品安全委員会の主な役割	3
1)	リスク評価（食品健康影響評価）	3
2)	リスクコミュニケーション	3
3)	緊急の事態への対応	3
4)	国際協調の推進	3
第1章 リスク分析(リスクアナリシス)の考え方について（総計 10）		ページ
1	ハザード（危害要因）	5
2	リスク	5
3	リスク分析（リスクアナリシス）	5
	（参考）リスク分析3要素（我が国における食品安全行政の場合）	
4	リスク評価（食品健康影響評価）	6
5	自ら評価	6
6	リスク管理	6
7	リスクコミュニケーション	6
8	予防原則	6
9	クライシスマネージメント（危機管理）	6
10	クライシスコミュニケーション	7
第2章 リスク評価の結果を理解するために（総計 281）		
(1) リスク評価（計31）		ページ
1	リスク評価（食品健康影響評価）	9
2	定量的リスク評価	9
3	定性的リスク評価	9
4	一日摂取許容量（ADI、許容一日摂取量）	9
5	耐容一日摂取量（TDI）、耐容週間摂取量（TWI）	10
6	参照用量（RfD）	10

7	急性参照用量 (ARfD)	10
8	ALARA (アララ) の原則	11
9	耐容上限摂取量 (UL)	11
10	無毒性量 (NOAEL)	11
11	無作用量 (NOEL)	11
12	最小毒性量 (LOAEL)	11
13	最小影響量 (LOEL)	11
14	安全係数 (SF)	11
15	用量-反応評価	12
16	ベンチマークドーズ (BMD)	12
17	ユニットリスク	13
18	パーセンタイル	13
19	ばく露評価	13
20	MOE (ばく露マージン (ばく露幅))	13
21	(食品健康影響評価における) ばく露評価対象物質	14
22	閾値	14
23	カットオフ値	14
24	TTC (毒性学的懸念の閾値)	14
25	カテゴリーアプローチ	14
26	定量的構造活性相関 (QSAR)	14
27	構造アラート	14
28	摂取時安全目標値 (FSO)	15
29	アドバース アウトカム パスウェイ (AOP)	15
30	評価ガイドライン	15
31	ファクトシート	15

(2) 毒性及び毒性試験 (計 47)

ページ

1	毒性	15
2	中毒	15
3	混餌投与	15
4	強制経口投与	16
5	飲水投与	16
6	一般毒性	16
7	特殊毒性	16
8	LD (致死量)	16
9	LD ₅₀ (半数致死量)	16
10	実質安全量 (VSD)	16
11	薬理 (学) 試験	16
12	デオキシリボ核酸 (DNA)	17
13	姉妹染色分体交換	17

14	免疫	17
15	単回投与毒性試験	17
16	反復投与毒性試験	17
17	神経毒性	17
18	遅発性神経毒性	18
19	急性毒性	18
20	亜急性毒性	18
21	慢性毒性	18
22	生殖毒性（繁殖毒性）	18
23	発生毒性	18
24	発達神経毒性	19
25	遺伝毒性	19
26	変異原性（狭義の遺伝毒性）	19
27	変異原性試験	19
28	エイムス試験（エムス試験）（復帰突然変異試験）	19
29	小核試験	19
30	染色体異常試験	20
31	光発がん性	20
32	光遺伝毒性	20
33	免疫毒性	20
34	ハーシュバーガー試験	20
35	子宮肥大試験	20
36	トランスジェニック動物	20
37	ノックアウトマウス	21
38	ノックインマウス	21
39	発がん性	21
	（参考）発がん物質分類表	
40	イニシエーション（作用）	22
41	イニシエーター	22
42	プロモーション（作用）	22
43	プロモーター	22
44	遺伝毒性発がん物質	22
45	非遺伝毒性発がん物質	22
46	動物体内運命試験（体内動態試験、薬物動態試験、ADME 試験）	22
47	POD	22

(3) 分析・単位（計 25）

ページ

1	疫学	23
2	交絡	23
3	コホート（前向き／後ろ向き）調査	23

4	症例対照研究	23
5	オッズ比 (OR)	23
6	標準化死亡比 (SMR)	24
7	精度管理 (QC)	24
8	定量限界 (LOQ)	24
9	検出限界 (LOD)	24
10	酵素	24
11	スクリーニング	24
12	サーベイランス	25
13	エライザ法 (ELISA)	25
14	ウエスタンブロット法	25
15	LC/MS 液体クロマトグラフィー質量分析法	25
16	LC/MS/MS 液体クロマトグラフィー／タンデム質量分析法	25
17	PCR 法	26
18	<i>in vivo</i> (イン・ビボ)	26
19	<i>in vitro</i> (イン・ビトロ)	26
20	<i>in silico</i> (イン・シリコ)	26
21	wet (ウエット)	26
22	dry (ドライ)	26
23	ホット	26
24	ppm、ppb、ppt (参考) 分率の単位	27
25	μg、ng、pg (マイクログラム、ナノグラム、ピコグラム) (参考) 重量の単位	27

(4) 化学物質系分野 (計 43)

ページ

(食品添加物、残留農薬、残留動物用医薬品、器具・容器包装、汚染物質)

1	食品添加物	27
2	食品添加物公定書	28
3	キャリーオーバー	28
4	加工助剤	28
5	農薬	29
6	農薬登録	29
7	インポートトレランス制度	29
8	残留農薬	30
9	農薬の使用基準	30
10	ポストハーベスト農薬	30
11	ポジティブリスト (制度)	31

(参考) 食品に残留する農薬等のポジティブリスト制度

(食品衛生法第 11 条関係)

12	最大残留基準値 (MRL)	32
13	(食品中に残留する農薬等に関するポジティブリスト制度における) 一律基準	32
	(参考) 諸外国における一律基準値の設定状況	
14	(食品中に残留する農薬等に関するポジティブリスト制度における) 暫定基準	32
15	(食品中に残留する農薬等に関するポジティブリスト制度における) 対象外物質	32
16	理論最大一日摂取量 (TMDI)	33
17	推定一日摂取量 (EDI)	33
18	トータルダイエツトスタディ	33
19	マーケットバスケット方式	33
20	陰膳方式	33
21	モンテカルロ法	33
22	動物用医薬品	34
23	飼料添加物	34
24	ワクチン	34
25	アジュバント	35
26	免疫増強剤	35
27	抗生物質	35
28	抗菌性物質	35
29	薬剤耐性	35
30	汚染物質	35
31	内分泌かく乱物質	35
32	ビスフェノール A (BPA)	36
33	溶出試験	36
34	カドミウム	36
35	鉛	36
36	メチル水銀	37
37	アクリルアミド	37
38	グリシドール	37
39	グリシドール脂肪酸エステル	37
40	3-MCPD	37
41	ヒ素	38
42	ダイオキシン類	38
43	生物濃縮	38

(5) 生物系分野 (計 53)

ページ

(微生物・ウイルス、かび毒・自然毒、プリオン)

1	微生物	39
2	細菌 (バクテリア)	39
3	芽胞 ^{がほう}	39
4	ウイルス	39

5	自然毒	39
6	ソラニン	40
7	かび毒	40
8	アフラトキシン	40
9	オクラトキシン	40
10	パツリン	41
11	デオキシニバレノール	41
12	ニバレノール	41
13	フモニシン	41
14	食中毒	41
	(参考) 静菌、除菌、殺菌、滅菌	
15	サルモネラ属菌	42
16	黄色ブドウ球菌	43
17	ボツリヌス菌	43
18	腸炎ビブリオ	44
19	腸管出血性大腸菌 (EHEC)	44
20	ウエルシュ菌	45
21	セレウス菌	45
22	エルシニア・エンテロコリチカ	46
23	カンピロバクター・ジェジュニ/コリ	46
24	ギラン・バレー症候群	46
25	リステリア・モノサイトゲネス	46
26	ノロウイルス	47
27	A型肝炎 (HAV)、E型肝炎 (HEV)	47
28	トキソプラズマ	48
29	旋毛虫 (トリヒナ)	48
30	<small>ゆうこうじょうちゅう</small> 有鉤条虫	49
31	<small>むこうじょうちゅう</small> 無鉤条虫	49
32	アニサキス	49
33	クドア・セプテンpunkタータ	50
34	下痢性貝毒 (DSP)	50
35	シガテラ毒素 (CTX)	51
36	テトロドトキシン (TTX)	51
37	敗血症	52
38	アレルギー反応	52
39	感染経路	52
40	交差汚染 (二次汚染)	52
41	ID ₅₀ (50%感染量)	52
42	人獣共通感染症 (人畜共通感染症、動物由来感染症)	52
43	プリオン	53

44	牛海綿状脳症（定型 BSE）	53
45	非定型 BSE	53
46	クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）	54
47	国際獣疫事務局（OIE）による BSE ステータス評価	54
48	特定危険部位（SRM）	54
	(図) 日本における特定危険部位（SRM）	
	(表) 日本、EU 域内、米国の特定危険部位（SRM）の範囲	
49	BSE（牛海綿状脳症）の検査法	55
50	肉骨粉（MBM）	55
51	フィードバン	56
52	高病原性鳥インフルエンザ	56
53	レセプター（受容体、受容器）	56

(6) 新食品・栄養等分野（計 35）

ページ

（遺伝子組換え食品等、新開発食品、肥料・飼料等）

1	バイオテクノロジー	57
2	遺伝子組換え食品（GM foods）	57
3	宿主	57
4	ベクター	57
5	挿入遺伝子	58
6	ドナー（供与体）	58
7	発現ベクター	58
8	組換え体	58
9	イベント	58
10	遺伝子産物	58
11	遺伝子組換え微生物	58
12	ターミネーター	58
13	オープンリーディングフレーム	58
14	コドン	58
15	クローン	59
16	体細胞クローン	59
17	クローニング（クローン化）	59
18	セルフクローニング	59
19	ナチュラルオカレンス	59
20	害虫抵抗性遺伝子組換え作物	60
21	除草剤耐性遺伝子組換え作物	60
22	スタック品種（掛け合わせ品種）	60
23	ES 細胞（胚性幹細胞）	60
24	iPS 細胞（人工多能性幹細胞）	60
25	新植物育種技術（NBT）	60

26	いわゆる「健康食品」	60
27	保健機能食品	61
28	栄養機能食品	61
29	特定保健用食品	61
30	サプリメント	61
31	イソフラボン	61
32	飽和脂肪酸	62
33	不飽和脂肪酸	62
34	トランス脂肪酸	63
35	放射線照射食品（照射食品）	63

(7) 放射性物質（計 47）

ページ

1	放射線（電離放射線）	63
2	自然放射線	64
3	放射能	64
4	放射性物質	64
5	放射性崩壊（壊変）	64
6	α （アルファ）線	64
7	β （ベータ）線	64
8	γ （ガンマ）線、X（エックス）線	64
9	中性子線	65
10	核種	65
11	ヨウ素（ヨウ素 131）	65
12	セシウム（セシウム 134、137）	65
13	ストロンチウム	65
14	カリウム	65
15	ポロニウム	65
16	ウラン	66
17	プルトニウム	66
18	物理学的半減期	66
19	生物学的半減期	66
20	実効半減期	66
21	LET（線エネルギー付与）	66
22	吸収線量	67
23	等価線量	67
24	放射線加重係数	67
25	組織加重係数	67
26	実効線量	67
27	実効線量係数	67
28	ベクレル（Bq）	68

29	グレイ (Gy)	68
30	シーベルト (Sv)	68
31	線量	68
32	線量率	68
33	累積線量	68
34	預託線量	68
35	確定的影響	68
36	確率的影響	69
37	直線閾値なし仮説 (LNT 仮説)	69
38	相対危険度 (RR)	69
39	過剰相対リスク (ERR)	69
40	外部被ばく	69
41	内部被ばく	69
42	甲状腺	69
43	線量限度	70
44	介入レベル	70
45	予測線量	70
46	回避線量	70
47	介入における防護の最適化	70

第3章 リスクコミュニケーション関連用語 (総計 5)

ページ

1	リスクコミュニケーション	71
2	ファシリテーター	71
3	クロスロード	71
4	アイスブレイク	71
5	食の安全ダイヤル	71

第4章 その他の用語 (総計 9)

ページ

1	毒物・劇物	73
2	HACCP (ハサップ)	73
3	ISO9000 シリーズ	73
4	トレーサビリティ	73
5	フードチェーン	74
6	コンプライアンス	74
7	食育	74
8	フードディフェンス	74
9	消費期限と賞味期限	74

第5章 法律・組織等（総計 84）

(1) 関係法律等（計 20）	ページ
1 食品安全基本法	77
2 食品衛生法	77
3 健康増進法	77
4 水道法	77
5 農薬取締法	78
6 飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律	78
7 肥料取締法	78
8 家畜伝染病予防法	78
9 牛海綿状脳症対策特別措置法	79
10 牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法 （いわゆる牛トレーサビリティ法）	79
11 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（旧薬事法）	79
12 と畜場法	79
13 食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律	80
14 米穀等の取引等に係る情報の記録及び産地情報の伝達に関する法律 （いわゆる米トレーサビリティ法）	80
15 食品表示法	80
16 農用地の土壌の汚染防止等に関する法律	80
17 ダイオキシン類対策特別措置法	81
18 カルタヘナ議定書 （生物の多様性に関する条約のバイオセーフティに関するカルタヘナ議定書）	81
19 遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律 （いわゆるカルタヘナ法）	81
20 ストックホルム条約（残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約）	81

(2) 組織〔国際機関・海外政府機関・国内機関〕（計 64）

1) 国際機関（小計 11）	ページ
1 FAO：国際連合食糧農業機関	82
2 WHO：世界保健機関	82
3 Codex：コーデックス委員会	82
4 JECFA：FAO/WHO 合同食品添加物専門家会議	82
5 JMPR：FAO/WHO 合同残留農薬専門家会議	82
6 JEMRA：FAO/WHO 合同微生物学的リスク評価専門家会議	83
7 OIE：国際獣疫事務局	83
8 IARC：国際がん研究機関	83
9 OECD：経済協力開発機構	83
10 WTO：世界貿易機関	83
11 ISO：国際標準化機構	84

2) 海外政府機関（小計 31）

	ページ
1 欧州	
1 DG SANTE：欧州委員会保健衛生・食の安全総局.....	84
2 FVO：欧州連合食品・獣医局.....	84
3 EFSA：欧州食品安全機関.....	84
4 EMA：欧州医薬品庁.....	85
5 CEN：欧州標準化委員会.....	85
6 ECDC：欧州疾病予防管理センター.....	85
7 DEFRA：英国環境・食料・農村地域省.....	85
8 FSA：英国食品基準庁.....	85
9 ANSES：フランス食品環境労働衛生安全庁.....	85
10 BMEL：ドイツ連邦食糧農業省.....	86
11 BVL：ドイツ連邦消費者保護・食品安全庁.....	86
12 BfR：ドイツ連邦リスク評価研究所.....	86
13 AECOSAN：スペイン消費食品安全栄養庁.....	86
14 RIVM：オランダ国立公衆衛生環境研究所.....	86
2 北米	ページ
1 USDA：米国農務省.....	87
2 FSIS：米国食品安全検査局.....	87
3 EPA：米国環境保護庁.....	87
4 FDA：米国食品医薬品庁.....	87
5 CFSAN：米国食品安全・応用栄養センター.....	87
6 CDC：米国疾病管理予防センター.....	88
7 NIH：米国国立衛生研究所.....	88
8 NIEHS：米国環境健康科学研究所.....	88
9 カナダ保健省.....	88
10 CFIA：カナダ食品検査庁.....	88
3 その他の国	ページ
1 FSANZ：オーストラリア・ニュージーランド食品基準機関.....	88
2 APVMA：オーストラリア農薬・動物用医薬品局.....	89
3 中国国家衛生・計画出産委員会.....	89
4 中国国家品質監督検査検疫総局.....	89
5 香港食物環境衛生署食物安全センター.....	89
6 台湾衛生福利部.....	89
7 AVA：シンガポール農食品・獣医局.....	90

3) 国内機関 (小計 22)

1 厚生労働省関係	ページ
1 医薬食品局 食品安全部.....	90
2 検疫所.....	90
3 厚生科学審議会.....	90
4 薬事・食品衛生審議会.....	91
5 地方厚生局.....	91
6 国立がん研究センター.....	91
7 国立医薬品食品衛生研究所.....	91
8 国立感染症研究所.....	91
9 独立行政法人国立健康・栄養研究所.....	92
(国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所)	

2 農林水産省関係	ページ
1 消費・安全局.....	92
2 動物医薬品検査所.....	92
3 動物検疫所.....	92
4 植物防疫所.....	92
5 地方農政局.....	92
6 農業資材審議会.....	93
7 食料・農業・農村政策審議会.....	93
8 独立行政法人農林水産消費安全技術センター.....	93
9 独立行政法人(国立研究開発法人)農業・食品産業技術総合研究機構.....	93
10 独立行政法人(国立研究開発法人)農業環境技術研究所.....	94
11 独立行政法人(国立研究開発法人)水産総合研究センター.....	94

3 環境省関係	ページ
1 独立行政法人(国立研究開発法人)国立環境研究所.....	94
2 中央環境審議会.....	94

参考資料.....	97
-----------	----

参考ウェブサイト.....	97
---------------	----

索引.....	101
日本語索引.....	101
外国語索引.....	107

